

第XIII章 事業の進捗状況の点検（経過観察）

1 節 経過観察の方向性

経過観察は、史跡飯田古墳群保存活用計画に基づき実施する諸事業の進捗状況を的確に把握するために行うもので、その観察結果の検証を通して事業内容や計画を見直し、より実効性のあるものにする。

なお、経過観察は史跡の管理団体である飯田市が主体となって実施するが、第三者による検証も検討する。

2 節 経過観察の方法

経過観察は、PDCAサイクルを導入して実施する。Plan（計画立案）は、史跡の保存管理、活用、整備を推進するための事業計画を立案する。Do（事業実施）は、事業を計画的に実施する。Check（点検・分析）は、事業内容が適切であるか、計画的に進められているか等について点検し、その結果を分析する。Action（改善・見直し）は、抽出された問題点の解決方法を検討し、事業内容や進め方の改善を図る。一連の経過観察の結果を、次年度事業や新たな計画策定に反映させることによって、さらなる事業推進を図る。

経過観察は、事業内容によって短期的なサイクル（1年・5年単位）で行うものと、長期的なサイクル（10年単位）で行うものがあることから、次に、それぞれの経過観察の流れを示す（図28・29）。合わせて、事業の進捗状況や進め方等について点検する上での基本事項として、点検項目と項目ごとの点検内容を整理した点検表（案）を示す（表20・21）。なお、実際の事業内容に応じて、点検表の項目と内容を選択する。

【短期的なサイクルで実施する経過観察】

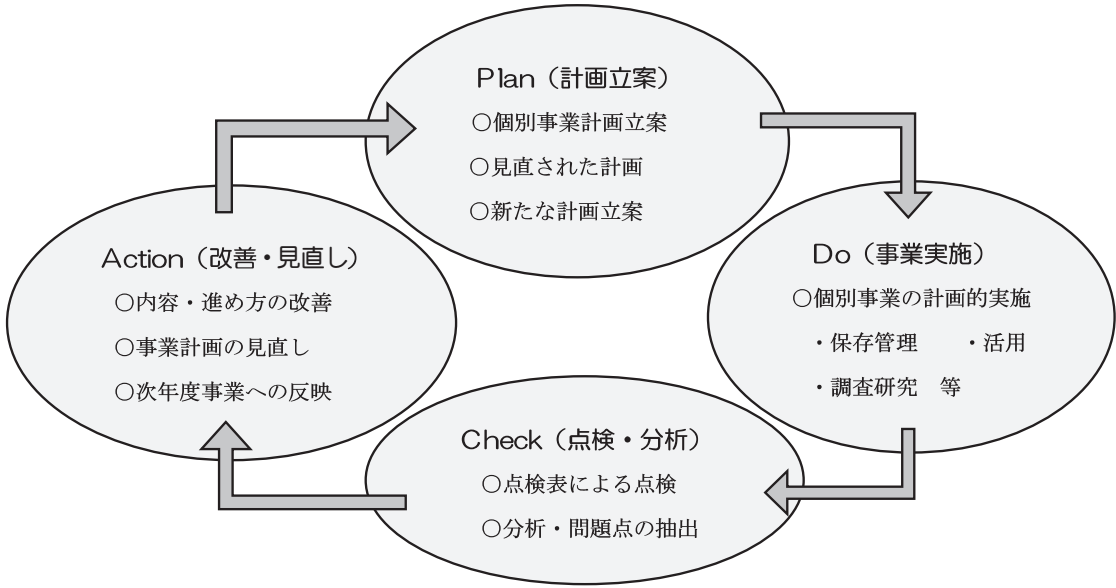


図28 短期的な経過観察の流れ

表20 短期的な事業の点検表（案）

点検項目	点検内容
史跡の保護に必要な調査	・ 調査箇所・方法等を十分検討し、調査計画を立案しているか。
	・ 調査が必要な古墳について、関係者との事前調整はできているか。
	・ 調査目的、計画に従って適切に調査が行われているか。
	・ 調査の進捗状況に応じて、必要な見直しを行っているか。
保存管理に関する事項	・ マニュアルを作成し、適切な方法で保存管理されているか。
	・ 関係者や地域の協力を得て適切な維持管理をしているか。
	・ 定点観察により経年変化を確認し、記録しているか。
	・ 現状変更の取扱基準は適正に運用されているか。
	・ 出土遺物は適切に保存・管理されているか。
活用に関する事項	・ 関係者の理解を得て、史跡の現地公開に努めているか。
	・ 情報発信を適切に行っているか。
	・ 学校等教育機関と連携した活用をしているか。
	・ 大学等研究機関と連携した活用をしているか。
	・ 地域や諸団体と連携した活用をしているか。
	・ 観光部局や観光に関わる団体等と連携した活用をしているか。
	・ ガイドの育成や支援を行っているか。
	・ 出土遺物の活用を図っているか。
運営・体制の整備に関する事項	・ 史跡の保存管理・活用に必要な体制が整えられているか。
	・ 地域や諸団体と協働した体制が整えられているか。
	・ 国・県・市の関連部局との連携体制が整えられているか。
	・ 円滑な運営のため、適切な連絡調整を図っているか。

【長期的なサイクルで実施する経過観察】

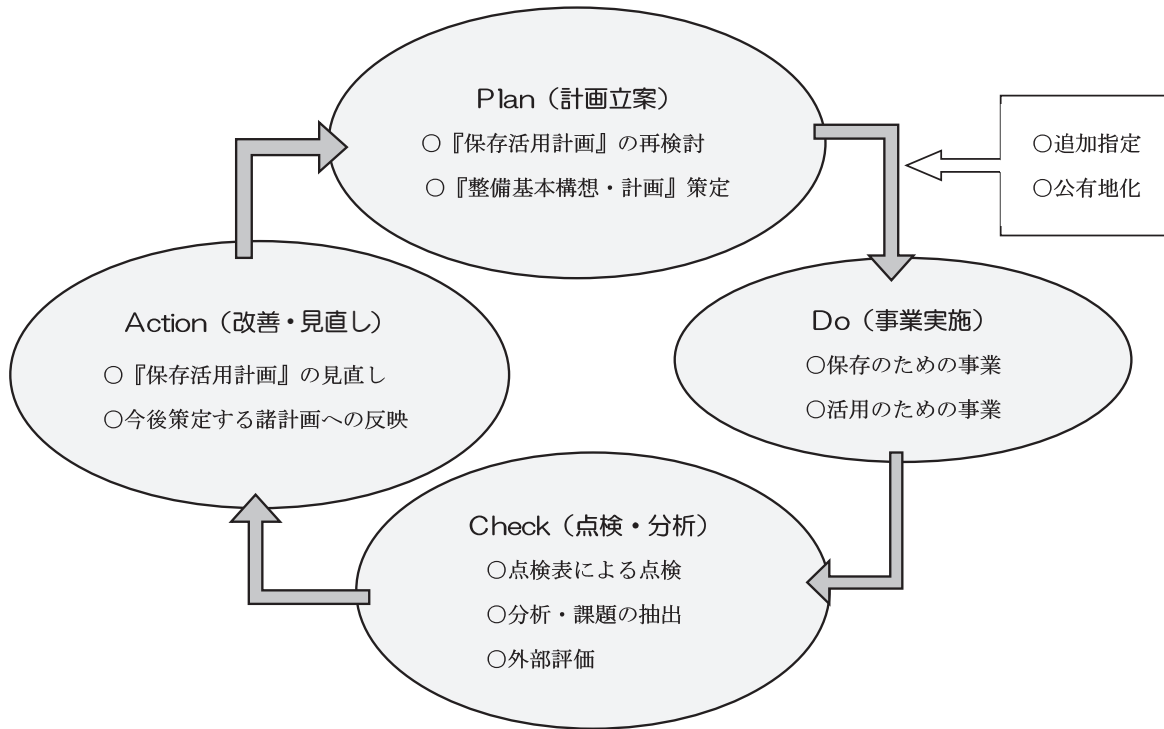


図29 長期的な経過観察の流れ

表21 長期的な事業の点検表（案）

点検項目	点検内容
保存管理に関する事項	・ 保存活用計画の見直しはされているか。
	・ 追加指定に向けた取組を進めているか。
	・ 公有地化に向けた取組を進めているか。
活用・整備に関する事項	・ 整備基本構想・基本計画は策定されているか。
	・ 保存のための整備となっているか。
	・ 活用のための整備となっているか。
	・ 学術調査に基づく整備となっているか。
	・ 整備内容の検証は行われているか。
運営・体制の整備に関する事項	・ 体制運営は円滑に進められているか。
	・ 状況の変化に応じた体制となっているか。

【引用・参考文献】

- 鳥居龍蔵 1924 『下伊那の先史及原史時代 図版』
- 下伊那誌編纂会 1955 『下伊那史』第2巻
- 下伊那誌編纂会 1955 『下伊那史』第3巻
- 下伊那地質誌編集委員会編 1976 『下伊那地質図説明書 下伊那の地質解説』
- 長野県史刊行会 1983 『長野県史 考古資料編 主要遺跡（南信）』全1巻（3）
- 下伊那教育会 1984 『下伊那誌 気象編』下伊那誌編纂会
- 松尾昌彦 1985 「信濃の馬具」『東日本における古墳時代遺跡・遺物の基礎的研究 昭和57～59年度科学研究補助金（一般研究C）研究成果報告書』
- 岡安光彦 1986 「馬具副葬古墳と東国舍人騎兵—考古資料と文献史料による総合的分析の試み—」『考古学雑誌』第71巻第4号
- 白石太一郎 1988 「伊那谷の横穴式石室（一）（二）」『信濃』第40巻第7・8号
- 長野県史刊行会 1988 『長野県史 考古資料編 遺構・遺物』全1巻（4）
- 下伊那誌編纂会 1991 『下伊那史』第1巻
- 松島信幸・亀田武巳・村松武編 1991 『三六災害40周年 伊那谷の土石流と満水』伊那谷自然友の会・飯田市美術博物館
- 桃崎祐輔 1993 「古墳に伴う牛馬供犠の検討—日本列島・朝鮮半島・中国東北地方の事例を比較して—」『古文化談叢』第31集
- 小林正春 1994 「長野の古墳—下伊那の古墳時代の埋葬馬」『日本考古学協会1994年度大会研究発表要旨』
- 伊那谷自然友の会編 1997 『伊那谷の自然Ⅱ—過去・現在・未来』社団法人中部建設協会
- 小林正春 2001 「伊那谷における古墳文化の特色」『尾張古代史セミナー（5） 東海とその周辺』
- 下伊那教育会生物委員会編 2001 『下伊那誌 生物編』下伊那誌編纂委員会
- 飯田市教育委員会 2003 「第四章 S B 01・S B 07出土の埴輪について」『殿村遺跡 大荒神の塚古墳』
- 西山克己 2003 「シナノの古墳時代中期とその前・その後—新来文化受容期の二相北南—」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第11集
- 山下誠一 2003 「飯田盆地における古墳時代前・中期集落の動向」『飯田市美術博物館研究紀要』第13号
- 山下誠一 2004 「飯田盆地における古墳時代後期集落の動向」『飯田市美術博物館研究紀要』第14号
- 土生田純之 2006 『古墳時代の政治と社会』吉川弘文館
- 風間栄一 2009 「古墳時代シナノの地域的特性からみた伊那谷の古墳」『飯田市歴史研究所年報』7号
- 田島公 2009 「古代科野の宮号舍人氏族—金刺舍人氏・他田舍人氏・久米舍人氏—」『飯田市歴史研究所年報』7号
- 土生田純之 2009 「東日本からみた伊那谷の古墳」『飯田市歴史研究所年報』7号
- 風間栄一 2011 「長野県における古墳時代の画期について」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第51集
- 小林正春 2011 「八 中部」『日本の考古学講座7 古墳時代（上）』広瀬和雄・和田晴吾編 青木書店
- 土生田純之 2011 『歴史文化ライブラリー 319 古墳』吉川弘文館
- 広瀬和雄・和田晴吾編 2011 『日本の考古学講座7 古墳時代（上）』青木書店
- 風間栄一 2012 「各地の古墳Ⅷ 中部高地」『古墳時代研究の現状と課題』上 土生田純之・亀田修一編 同成社
- 田中裕 2012 「古墳と水上交通—茨城県域とその周辺及び「畿内」の古墳立地を比較して—」『シンポジウム東日本における前期古墳の立地・景観・ネットワーク発表要旨資料』第17回東北・関東前方後円墳研究会大会

桐原健 2013 「東への道と飯田の古墳群」『飯田古墳群―論考編―』飯田市教育委員会
田中裕 2013 「伊那谷の埴輪とその系譜」『飯田古墳群―論考編―』飯田市教育委員会
土生田純之 2013 「伊那谷における横穴式石室の一考察」『飯田古墳群―論考編―』飯田市教育委員会
松尾昌彦 2013 「下伊那地域における馬匹生産と馬具製作」『飯田古墳群―論考編―』飯田市教育委員会
坂本正夫 2014 「遠山地震はどのような災害であったか知っていますか？」第6回びはく学芸祭要旨集
名古屋市教育委員会 2015 『史跡志段味古墳群保存管理計画』
村松武・寺岡義治 2015 「遠山川のせき止めと埋没林」『信濃』第67巻第4号
文化庁文化財部監修 2016 「新指定の文化財 飯田古墳群（全文）」『月刊文化財』9月号（No.636）
飯田市上郷考古博物館 2017 『飯田は古墳の博物館 古墳ガイドブック』
飯田市教育委員会 2017 『羽場獅子塚古墳』
群馬県教育委員会 2017 『金井東裏遺跡』
文化庁・熊本県教育庁 2017 『平成28年度熊本地震による古墳の被災状況について』
飯田市教育委員会 2019改訂 『飯田市埋蔵文化財包蔵地地図（市内遺跡詳細分布調査報告書）』

史跡飯田古墳群、飯田古墳群に関する既刊報告書

飯田市教育委員会 2007 『飯田における古墳の出現と展開』
飯田市教育委員会 2012 『飯田古墳群』
飯田市教育委員会 2013 『飯田古墳群―論考編―』

※ 個別古墳に関する報告書等については、本文巻末資料及び参考資料（CD収録）の記載を参照。